



委員会総会にて原会長と広報委員会

## 広報委員会①

### 広報誌『SOUSEI』の編集・制作

全国曹洞宗青年会 広報委員長 田ノ口太悟たのくちたいご

今回は、全国曹洞宗青年会（以下全曹青）の広報委員会の事業をご紹介します。広報委員会はその名の通り、全曹青の活動を広報周知する役割を担っており、様々な媒体を使って全曹青事業の広報に努めています。

その中の一つとして、今回は『SOUSEI』という紙冊子の編集をご紹介します。

『SOUSEI』は主に全曹青の活動、あるいは各加盟曹洞宗青年会の活動を載せ、また一号ごとに独自の特集記事を組んでいます。二・五・八・十一月の年4回発行で、発行部数は約一万二千部にのぼります。他にもいくつかの連載執筆も行っています。ページ数は表紙・裏表紙合わせて全二十ページです（オールカラー）。発行月の二ヶ月前の月末頃が締め切りです。そのさらに二ヶ月前くらいに各ページの記事の割り振り表（台割といいますが）を作成し、執筆者と記事の担当広報委員を決定します。決定次第、執筆の依頼を広報委員長が行います。

毎回、頭を悩ませるのはページ数の多い「特集」記

# 大本山御用達



両大本山御用達 曹洞宗専門  
梅花講指定販売店  
株式会社 谷口法衣佛具店

京都市下京区高辻通麩屋町東入ル 千六〇〇一八〇五五  
電話 京都(〇七五)三五五一―一九七四(代表)



広報誌『SOUSEI』各号

事です。毎号、あるテーマを決めて有識者にインタビューをしたり、まとまった解説記事を依頼したり、時には広報委員が体当たりで取材を敢行します。今回は田ノ口が関わった特集から、思い出深いものをご紹介します。

それは第一八〇号掲載(二〇一八年二月号発行)の「禅とランニング」特集です。この号では『禅』と「走ること」には共通点があるのでは』というテーマで駒澤大学の大八木監督にお話を伺い、また、大本山總持寺の方々には朝課でおなじみの「大悲真読」の元になった「峨山道」を走るトレイルランレースがあると聞き、挑戦いたしました。

当日、台風が迫る中、距離を予定の七十七キロから全長五十キロに縮めて開催されました。周囲がまだ薄暗い午前四時にスタートし、永光寺の裏手の五老峰の

